

社会に開かれた教育課程

「葉山中学校区コミュニティ・スクール、地域学校協働本部」 推進計画

《津野町学校教育重点目標》

- ① 夢や希望を持ち、心豊かでたくましい子どもの育成
- ② 自ら学び、考え、行動できる子どもの育成
- ③ 伝統と文化を大切にし、故郷を愛する子どもの育成

1. 目標実現に向けて

- ① 葉山中学校区コミュニティ・スクール、地域学校協働本部（保育・幼稚園・精華小学校・葉山小学校・葉山中学校）の設置
- ② 学校・園、保護者、地域それぞれの思いを一元化した合議体（学校運営協議会）を構築する。
- ③ 乳幼児期から義務教育終了までの15年間を学校・園、保護者、地域が緊密な連携のとれた教育活動を推進する。

2. 葉山中学校区コミュニティ・スクール、地域学校協働本部設置に向けて

- ① 既存の開かれた学校づくり推進委員会、学校評議員の解体・廃止。学校運営協議会推進委員会の設置。
- ② 学校運営協議会推進委員会開催に向けて各学校・園の協議事項の明確化。人数、属性の調整、役員選出、中学校区コミュニティ・スクール、地域学校協働本部の構想図の作成、部会の検討、年間活動計画作成、協議会の進め方等の検討を行う。
 - ・教職員 学校運営協議会及び協働本部設置目的の周知、担当教員の任命、全教職員が所属する部会の決定、校務分掌・学校行事との関連付け、研修会の実施 等
 - ・保護者 保護者への周知徹底、PTA 活動との関連付け、保護者の参加・協力依頼 等
 - ・地域 地域の実態把握、地域住民への周知、ボランティアの活用、地域学校協働本部との連携、双方向ニーズの把握 等
 - ・接続校 保幼・小・中の連携の在り方・学校運営協議会推進委員会の持ち方の協議 等
- ③ 先進校からの講師招聘や地域でどのように子どもたちを育てていくのか、何を実現していくのかという目標・ビジョンを共有するための「熟議」を行う。

「熟議」の実施を通して学校と保護者・地域との信頼関係の基礎を構築した上で、学校運営に保護者や地域の人々が参画し、共通の目標に向けて活動する「協働」体制の構築を図る。

中核となる学校は、目指すべきビジョンの達成に向かって学校内の組織運営管理にとどまらず、地域との関係強化、地域人材や資源等を生かした「マネジメント」に基づく学校運営を行う。

3. 期待される事業成果

- ① 学校運営協議会を通じて学校と地域が目標やビジョンを共有することによって、地域住民は教育の「当事者」として学校運営や子どもたちの教育活動に積極的に参画できるようになる。
- ② 学校が地域とともに発展していくことで地域の絆を強め、地域の活性化につながる。(社会総がかりの教育)
- ③ 学校と地域の連携・協働体制が組織的・継続的に確立され、地域の特性を生かした学校づくりや課題解決に向けた取組を進めることができる。(持続可能な組織体づくり)
- ④ 地域と学校が一体となって役割を分担し、それぞれが主体的に取組むのでお互いに達成感を得ることができる。また、負担軽減により教員が子どもと向き合う時間の確保ができる。

4. 設置年限

- ・上記組織体を令和2年4月1日設置を目指すものとする。